

花うさぎの「世界は腹黒い」

日本が普通の国になるように。産経新聞を応援しています。

「なぜ韓国はパチンコを全廃できたのか」(2011/01/22)

(<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/entry/2121428/>)

若宮健氏の新著が大反響、一ヶ月半で6刷!

マスコミ、政治家、警察の対応G!

日本は正反対、癒着・利権の構図?

花うさぎ

検索

<http://hanausagi.iza.ne.jp/blog/>

下に貼り付けたチャンネル桜の「パチンコに溺れる日本、全廃した韓国」の番組をみて、すぐ書店で「なぜ韓国はパチンコを全廃できたのか」を購入してきました。著者の若宮健氏のHPをみると、昨年12月2日に祥伝社から発売されて以来、大反響。増刷に増刷を重ねて既に6刷になっているということです。

本のタイトルの「なぜ韓国はパチンコを全廃できたのか」ですが、もの凄いダイジェストで結論から言えば、パチンコに絡む事件・事故をきっかけにマスコミが真剣に報道し、これを政治家が正面から受け止め、警察も検察も徹底した取り締まりをしたから、だそうです。

日本の場合、実はパチンコによる事件・事故は韓国よりもっと深刻ですが、電通のメディア広告支配によりマスコミは「パチンコ」はタブー視扱いで報道せず、取り込まれている政治家も多い。取り締まる警察はというとこれも関連業界に多数天下っている、という事実があって、話題にすらならず、ましてや禁止にはとてもとても、というのが実態とか。この件に関しては韓国の方がよほど「まとも」ですね。



いや～読みやすい本です。購入して三時間で読み切ってしまいました。著者はトヨタ自動車で新車販売1000台表彰を受けるほどの優秀な営業マンだったようで、このパチンコ問題にも早くから取り組み、いち早く韓国のパチンコ全廃をレポートしたものの、取り上げたマスコミは皆無だったそうです。これまでも「打ったらハマるパチンコの罠」(パート1、2)を出版、好評を博してきたそうです。

ここから突然、個人的な話になりますが、私はお酒(ビール、日本酒、ウイスキー)が大好きで、マルポロ赤(ソフト)を一日50本も吸うヘビースモーカーでもあります。承知の通り、お酒もタバコも価格の半分以上が税金。年間21兆円も売り上げのある「日本人にとって有害そのもの」のパチンコに税金をかけないのは絶対に納得できません。

20兆円のパチンコ産業に100%の税金(つまり価格を倍に値上げ)をかければ、マーケットが半分の10兆円に激減しても10兆円の税収。これでやっと小売価格の税率が50%、お酒やタバコ並みに肩を並べるわけです。その10兆円のうち、二分の一の5兆円を毎年国防費に廻せば、本当に「自分の国は自分で守る」普通の国になることが出来ます。絶対に実現させましょう。

大変勉強になりますので、是非、この本を購入し、チャンネル桜の番組を見て下さい。以下、本の中で警察の天下り組織についての解説がありましたので、その部分のみを抜粋して以下で紹介いたします。こんなに色々あるなんて、夢にも思いませんでした。取り締まる側がこれだけ業界にベッタリだと、普通はこれを「癒着」といいませんか?

ご覧になっていない方、注目です。この番組もナイスタイミングでした。YouTubeアクセス数7300回突破!



【若宮健】パチンコに溺れる日本、全廃した韓国[チャンネル桜H23/1/20]

動画解説: 射幸性などが社会問題として論じられつつも、一大産業として日本社会に深く根付いているパチンコ。意外にも韓国

が2006年に全廃したいきさつや、翻ってパチンコ批判がタブーと化している日本の現状、業界をめぐる知られざる実態などについて、長年パチンコ問題を追いつけてこられた若宮健氏にお聞きしていきます。

元警視總監が会長を務める「保通協」とは?

(前略)パチンコが日本で禁止できない理由は数多いものの、避けては通れないものに警察官僚の天下りの問題がある。その天下りの実態を検証してみたい。まず、パチンコ業界の関連団体としておもだったものを、次に挙げてみよう。

保通協(財団法人保安電子通信技術協会)

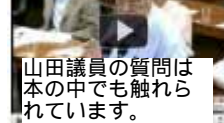
警察庁の外郭団体として組織された1982年設立の団体で、国家公安委員会の委託を受けて、パチンコ・パチスロなどの遊技機の型式試験・検査を行なう組織である。すべてのパチンコ・パチスロの機械は、この組織の試験に合格しなければ市場に出ることはない。

保通協は警察傘下の財団で、それ自体が規則を決めたりする権限はない。しかし、多額の検査料が入ってくる。一機種審査するのに、パチンコ機で152万円。パチスロ機で181万円と言われている。最近、とくにパチンコ台の代替サイクルが速くなっている。保通協には、検定料だけで年間10億円以上の莫大な金が入ることになる。それも、競争相手のない独占なのである。

動画:パチンコ依存症



既に5年前にはこんなレポート番組が放映されています。



山田正彦議員(民主)パチンコ国会質問-1

山田議員の質問は本の中でも触れられています。

日電協(日本電動式遊技機工業協同組合)

日工組(日本遊技機工業組合)

日遊協(社団法人日本遊技関連事業協会)

全日遊連(全日本遊技事業協同組合連合会)

回胴遊商(回胴式遊技機商業協同組合)

(*団体内容詳細については本&ブログ参照)

【動画コメント欄より】国の対策で、税金で? パチンコ屋を守れだー! 朝鮮に金送れって? 民主は正気ですか? 民主支持者はこういう現実知らないでしょ? それが怖い。知ってて支持する日本人がいる? パチンコがなくなることは良いことだ。この民主の議員はバカ?

このように、パチンコ業界には、やたらと組合や、協会が多い。その中の「保通協」については先にも紹介したが、その役員を調べてみると、2010年7月1日現在、会長の吉野準氏は元警視總監である。

警視總監とは、警視庁警察官の階級として最高位である。警視庁の元トップが、パチンコ業界に天下りしている。専務理事の都甲洋史氏は元警察庁情報通信局長である。常務理事の柳澤昊氏は元福岡県警本部長。同じく常務理事の武市一幸氏は一兀警察庁情報通信局長である。

保通協は、本部事務所を墨田区太平に置き、パチンコ機やパチスロ機の試験や検定を行なう組織である。先にも記したように、試験検定料はパチンコ機で機152万円、パチスロ機で181万円とホームページには記載されている。これで儲からないほうがおかしい。

2009年度の型式試験申請書受理件数を調べてみると、パチンコ遊技機672件(前年比136件増)、回胴式遊技機(パチスロ)は786件(前年比45件減)となっている。これに、パチンコやパチスロの試験検定料をかけてみれば、おのずと収入が明らかになる。

保通協の検査を通らなければ、パチンコ機もパチスロ機もパチンコ店には流れない。もっとも、保通協の試験に合格しても、さらに各都道府県の公安委員会の検定を受けなくてはならない。保通協は、パチンコ機、パチスロ機のメーカーにとっては、頭の上からない組織なのである。その組織の幹部には、元警察幹部が天下りしている。さらにはパチンコ機のメーカーにも、天下りが行なわれている現実がある。

(後略、なぜ韓国はパチンコを全廃できたのか P198-P203)

若宮健

検索

若宮健氏のホームページはこちらです。

(<http://www.wakamiyaken.jp/>)



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画
マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見!
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り~伝えよう日本のあゆみ~」
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに...」

iza ブログランキング
【全体】6位 【政治】3位
(2011年2月8日時点)